

平成30年度第2回下野市子ども・子育て会議 会議録

項 目	内 容
会議名	平成30年度第2回下野市子ども・子育て会議
開催日時	平成30年11月12日（月）午後1時30分～午後2時50分
開催場所	下野市庁舎3階 304会議室
出席委員 (敬称略)	(会長) 伊崎 純子 (副会長) 土屋 友里恵 大柿 未央子 永井 清美 峯 雅士 須崎 隆幸 松嶋 利江 佐藤 麻矢子 内木 大輔 小倉 庸寛 大垣 玉枝 佐藤 美佐子 深津 静枝
欠席委員 (敬称略)	津野田 恭子
事務局等	山中健康福祉部長 こども福祉課：落合課長 永田課長補佐 篠崎主幹 森口主幹 五月女副主幹 篠崎主査
傍聴者	0名
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 (1) 第2期 子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について (2) その他 4 その他
配付資料	資料1 下野市子ども・子育て会議委員名簿 資料2 第2期 下野市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について ・調査票案（就学前・小学生）

1 開 会

事務局：

ただいまより、平成30年度第2回下野市子ども・子育て会議を開会いたします。

本日の委員の出欠状況について、津野田委員より欠席の報告を受けています。過半数の委員の出席がありますので、下野市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定を満たしており、会議が成立することをご報告します。

次第に沿って進めさせていただきます。次第の2会長あいさつをよろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

伊崎会長：

皆さまこんにちは。今日もまた熱い議論を交わして頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局：

ありがとうございました。議事進行につきましては、条例第6条第1項の規定により会長に議長をお願いします。

3 議事

会議条例第6条第1項の規定により、伊崎会長が進行

伊崎会長：

議事に入る前に、会議録の署名人を指名させていただきます。会議録署名人につきましては、資料1の名簿順にお二人ずつ指名させていただいております。今回は峯委員と佐藤（麻）委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

では議事に入ります。まずは（1）「第2期 下野市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について」を議題といたします。皆さまには平成32（2020）年度からの次期計画策定の基礎となる重要な調査となりますので、活発なご議論を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。事務局より説明をお願いします。

事務局：

資料2に基づき「第2期 下野市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について」を説明。

伊崎会長：

ありがとうございました。事前に質問を頂いた方もいらっしゃいますが、改めて説明を受けて質問等がございましたらお願いしたいと思います。議事録作成の都合上、お名前をおっしゃってからご発言をお願いいたします。

土屋委員：

特に就学前のアンケートなのですが、持った瞬間、とても厚くて「面倒」と思ってしまう人が多いのではないかと思います。そうすると回収率も下がってくると思うので、なるべくスリム化するために、最初の2ページのお願いの部分とアンケートを分ける事は可能でしょうか。

事務局：

委託している調査会社との調整が必要になってまいります。就学前調査につきましては、最初のお願いの1枚とアンケート部分と分ける予定となっております。

土屋委員：

私的には、アンケートというのは直に目に飛び込んでくる方が分かり易いというか、「これぐらいの内容だったら」と回答率が上がる気がします。なので、アンケートの前に何もない状態の方がいいのかなというのが個人的な意見です。

事務局：

何もないというのは、3ページ目から始まるという事でしょうか。

土屋委員：

そうです。その方がお母様方は最初にどんなものか分かった方が、「このぐらいの内容だったら答えようかな」と思ってくれると思います。それがやはり開かないと分からないというのは、開かないで終わってしまう気がするので、アンケートが一番最初に有った方が回収率が上がる気がします。

事務局：

今回の調査は前回と違って、調査会社には調査・分析のみで、コーディネーターとして会議には出席しておらず、予算の都合もあります。他の委員の方のご意見もあるでしょうが、この会議ではその方が回収率も上がるのではないのかと調査会社と調整をしたいと思います。

大垣（玉）委員：

就学前調査8ページの間14で選択肢の中に「児童発達支援センター・児童発達支援事業所」がありますが、14ページの小学校入学後の過ごし方の中でやはり発達が気になる子供たちをお預かりして下さる「放課後児童デイサービス」を入れてもいいのではないかと思います。

発達が気になる子は学校へ行って、支援クラスボーダーの子たちや支援学校の子たちは放課後児童デイサービスに行く事が多いので、無作為抽出の調査ならそのような保護者様も多いと思うのでできたら加えて頂ければと思います。

伊崎会長：

そうしますと、小学生調査の5ページの間8にも同様に付け加えるという事ですね。

事務局：

選択肢の中に加え、さらに注釈も入れさせていただきます。

峯委員：

資料2の中で調査対象者①就学前児童とその保護者 1,400件と②小学生児童とその保護者 600件で無作為とありますが、全体数がなかったので何人中の1400人、600人なのか、教えて頂きたいと思います。

事務局：

失礼しました。就学前児童につきましては、11月1日現在の人口統計では5歳未満では2,863人、小学生につきましては、4月1日現在の児童数が3,197人となっております。

峯委員：

小学生児童が3,197人いて、600件で大丈夫なのでしょうか。

事務局：

小学生につきましては、学校を通じて配付・回収となりますので、前回も90%強の回収率があり、今回も同程度の回収率が期待できますので、統計学的にも信頼性のある数値が得られるものと考えております。

峯委員：

回収率なのですが、前回25年度の就学前児童が67.9%ですが、これは高いと思いますか、低いと思いますか。

事務局：

統計では「誤差率」というものがございまして、その率が5%以内でしたらその調査は信頼できるとされております。

事前に事務局で今回の調査に当たって試算したところ、未就学児調査では回収率が30%であった場合、誤差率は4.4%、回収率が70%であれば誤差率は2.5%となり、より信頼度が上がる事になります。事務局としましても、誤差率が5%以内に収まるからと30%程度で構わないという事ではなく、前回は67.9%でありましたので、今回も同程度の回収率を目標に、広報活動などを進めて行きたいと考えております。

峯委員：

分かりました。ありがとうございました。

伊崎会長：

私からも一言申し上げますが、郵送回収であるとした場合、67%の回収率は非常に高いです。郵送回収ですと30%前後か切る位かと思imasuので、確実に幼稚園・保育園・認定こども園等で回収に協力頂いた事による結果だったかと思imasu。その他の方は如何でしょうか。いらっしゃらなければ、私の方から気になる一点がありまして、用語の定義の所でどちらの調査票でも1ページ目で、「子育て」の定義が「～行われる支援」と書いてあるのが気にかかっておりまして、その辺りご説明いただければと思imasu。

事務局：

この調査票における「子育て」の定義ということで載せておりますが、「教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援」という事で、子ども達が成長していくために保護者の方や社会全体が助けるという意味合いで「支援」という言葉を使わせていただきましたが、委員の皆さまで「支援」という表現は相応しくないのではというご意見がございましたら頂戴したいと思imasu。

伊崎会長：

代案がある訳ではないのですが、子育てが「支援」だと思っていてやっている事はないなと思imasuして、この用語の定義は必要なのでしょうか。

事務局：

国のひな型をそのまま引用したものでありまして、改めて「幼稚園」「保育所」「認定こども園」と比べると「子育て」とは何ぞやという難しい所で、この項目を削除するか内容を見直すかという事になるかと思imasu。

小倉委員：

「子育て支援」という表現ではどうでしょうか。

事務局：

「子育て支援」となると、どうしても行政から子育てをしている保護者の方等への支援という意味合いになってしまっていて、ここで用いているのは「子ども達の成長」ということで捉えて頂ければと思imasu。

小倉委員：

「教育」の項目について、設問では説明がありますが「幼児教育」という風にして幼児期というのは定義としてはいつからが幼児教育、幼児期なのかということになりますかね。満3歳から就学前を「幼児期」という風に説明した方が丁寧かなと思います。

あと、引き続きその用語の説明の上の四角で囲われた部分につきまして、黒丸の三番目の「地域の子育ての一層の充実」とありますが、ここに何か言葉が入りますか？

「地域の子育て支援の一層の充実」等かなと思いますが。

それから細かくて申し訳ありませんが10ページの間16-3で「教育施設…幼稚園・認定こども園（1号）認定」は「教育施設…幼稚園・認定こども園教育認定（1号）」となりますか。「教育」が抜けているかと思います。

あと、資料2の前回もお話はしているのですが、郵送で調査票を配付して園で回収してもいいですよ、という事で、配付もどこに就園しているか分かりますよね。園から配付した方が絶対回収率も上がると思います。園から持って帰ってきたらまた園に返さなくてはいけないといった心理もあると思いますので、郵送料もかかるでしょうから、何人分が各園に振り分けられるか分かりませんが、事務局の手間になるかと思いますが、もっと回収率を上げたいという事であれば、園を通して配付して頂いても協力できるかと思います。

事務局：

まず、1ページ目の四角の枠の中の文言ですが言葉足らずの様ですので、何か言葉を足すように事務局で検討させていただきます。10ページの「教育」の文字が抜けている部分につきましては、付け加えさせていただきます。そして、調査票配付のご協力につきましては、大変有り難いお申し出ではありますが、抽出の方法から電算で無作為に1,400人抽出して、園に通っている子、通っていない子を更にこの子は〇〇園、この子は△△園と分けるには非常に難しい所がございます、園に通っている子のみとすると調査結果に偏りが生じる恐れもありますので、小学生調査につきましては、全て学校に通っている子という事で学校を通じて配付・回収とさせて頂いておりますが、未就学児につきましては全てのお子さんが幼稚園・保育園・認定こども園等に通われている訳ではありませんので、まずはフラットな状態で市内在住の0歳から5歳までの通園している・していない関係なしに直接調査票をお渡しできる方法として、郵送配付とさせて頂きました。回収につきましては、回答者の手間を省くためにも通園している園でもお預かりしていただくという事で、小倉委員のご提案は大変有り難いのですが、今回につきましては郵送配付、郵送又は園で回収とさせて頂きたいと思います。

内木委員：

意見ではなく質問という形なのですが、1,400件無作為抽出との事ですが、0歳児のニーズと5歳児のニーズというのは全然違うと思ひまして、その辺りの数の偏りというのは前回出ていないのかなとか、またどのようにお考えなのかをお聞きしたいと思います。

事務局：

前回と同様の手法で行いますが、0歳児から5歳児まで年齢差・男女差が無いように抽出する方法を取らせていただきます。ただ、0歳児ですとこれから生まれるお子さんは対象に含まれませんので、他の年代の子ども達と比べると多少、減ってしまうかと思われませんが、偏りが無いように無作為抽出して行わせていただきます。

大垣（玉）委員：

質問の見出しで例えば未就学児調査の3ページで「封筒の宛名のお子さん」とご家族の状況についてうかがいます」とありまして、問1や問2にも「宛名の」という言葉がしつこくあるのですが、これは必要なのでしょうか。

事務局：

絶対必要とは言えないと思います。最初の質問に「宛名の」とあり、更に2問目以降にも「宛名の」文字があるのでしつこいと感じられるかと思われまますので、大見出しと最初の設問のみとし、次問以降の「宛名の」を削除しても問題は無いかと思えます。

深津委員：

私も調査票を見た時に繰り返し同じような形で出てくるので、ちょっとしつこいなと思ったのですが、より正確にピンポイントでこのお子さんの事の回答を求めるのであれば、しつこい位「宛名のお子さん」であってもご兄弟が多いとお母さんも子育て全般をイメージしたりすると回答が微妙にずれたりもするので、正確性を期するのであれば宛名のという言い方がどうかと、表現の仕方があるかもしれませんが「この子だよ」というのが分かるような聞き方の方がいいのではないかと思います。

伊崎会長：

如何でしょうか。私もどちらかという深津委員の意見に寄っていて、間違えが無いというか、答えに迷わないというのが一番だと思っていて、うるさいようですが確実な方がいいのではないかと考えています。

一旦、この宛名問題は置いておいて、また何か思いつかれましたらお知恵を拝借したいと思えます。その他になにかございますか。

佐藤（美）委員：

小学生調査票の6ページ、問9の枠の中で「①1～3年生の間は利用したい」と「②4～6年生の間も利用したい」と「は」と「も」の使い方が遠慮がちに使ってはいけないような雰囲気があるようなので、同じ文にしてもいいのかと思えます。

事務局：

高学年になっても使いたいというのが裏にあったのかなと思いますが、文言を修正しても回答に影響はないと思われますので、表中の「学年」を「利用したい学年」に修正し、項目を「1～3年生の間」、「4～6年生の間」のような形に修正させていただきます。

佐藤（美）委員：

1～3年生と4～6年生と分ける必要があるのかなと思うのですが、「利用する必要はない」を選択された方に何故利用する必要がない理由を聞いてもいいのではないのでしょうか。私の子どもも4年生位になると外で遊びたいとか、親は預けたくても友達と遊びたいから行きたくないといった家庭もありますし、若しくは近くのお爺ちゃん、お婆ちゃんの家に行くから等、色々な背景があると思いますので、そこの所を私は知りたいなと思いました。

事務局：

この項目につきましては、次期計画策定時に学童保育の量の見込みを算出するために必要となってきた、どれくらい希望者がいてそれに対する受け皿をどう確保するかを計画に盛り込む事になります。学童保育については基本的に保護者が共働きで、放課後家に誰もいなくなる家庭を想定していますので、利用する必要がないという回答は両親のどちらかが働いていないなど、保育の対象となっていない場合などもあり、ここでは必要ないとされた背景までは読み取れないかと思います。あくまで利用希望数を算出するための設問となります。

伊崎会長：

ありがとうございます。仮に、利用する必要はない理由というものを、新たに問9-2として加える事は可能でしょうか。

事務局：

追加は可能です。

伊崎会長：

放課後の利用の仕方によっては、例えば公園の充実であったりとかどこでどのように過ごしているかというのが分かるのも、有り難いかもしれないと思います。ただ習い事が増えた等の項目に関してはちょっとこの会議からは離れてしまうような気がしますので、その辺りはどうしたものかと思います。

記述などで回答欄を作ってもいいですかね。なにで要らないか、参考にしたいだけなので量が具体的に無くてもいいのかと思います。その他、如何でしょうか。

小倉委員：

お願いなのですが、先ほども内木委員よりあったようにニーズを正確に読み取るための調査な訳ですよ。国のニーズ調査における算出の考え方という計画書の冊子にもありますように0歳児保育の量の見込みを丁寧にしなさいよと指示があります。それは何故かという1歳児から利用できる事業があれば1歳児になるまで育児休暇を取得したい者のニーズを取ると。質問を読み込むとそのような方がどれ位いるか分かるんですよ。先ほど内木委員がおっしゃったように1歳児に可能性的には無作為に抽出してしまうと当たらない可能性がありますよね、割合で。下野市の1歳児の子どもの数というのが大体500名位ですよ。500名位の中の先ほど何%位だったらOKとありましたが、その%くらいは確実に抽出できるようなものにしておかないと、外れたという話になって、ちゃんとした事業計画を立てられないという事にならないかと思うのが一つと、あともう一つがページの一番初めにありますように無償化が始まりますよと言っているその無償化の対象のお子さんにちゃんとスポットを当てないと、無償化になる学年の子ども達に当たっていないと利用したいのかしたくないのか、無償化だったら利用したいのかしたくないのか、ちょっと読み取りにくい、この後の私たちの会議の中でもこのニーズがあったからやっぱり必要なのでないかとか、あるのではないのでしょうか。0歳、1歳、2歳というところが確実に%が取れるように5歳ばかり、5歳の調査も必要ですけど、可能性的には5歳ばかり60%位の確率で抽出されていたらどうなんだという話になるのかなと思っています。できたら各年代500人位ずつではないですか。しっかり%を取っていただいで抽出して頂けないかと思います。

事務局：

無作為ですのでピタピタという訳にはいきませんが、均等になるような電算の指示をさせていただきます。また、前回の配付ではなく回答結果をご説明させていただきますが、0歳児の回答率は21.0%、1歳児は14.4%、2歳児は14.0%、3歳児は16.2%、4歳児は16.1%、5歳児は15.1%、不明・無回答は3.2%という回答割合でした。回答率でいうと0歳児が21%と最も高くなっております。無作為ですので、どこかの年代だけが極端に高くなるということは考えにくいのですが、ただ11月現在の人口統計から0歳児が429人、1歳児が445人、2歳児が458人、3歳児が494人、4歳児が500人、5歳児が537人と最初にお話ししましたが当然0歳児はこれから生まれてくるお子さんは含まれておりませんので0歳児は少ないのですがこの中からバランスよく抽出できるように致します。

伊崎会長：

その他は如何でしょうか。すみません、こちらから指名させていただいて、永井委員いかがですか。

永井委員：

5歳までが大体500人位という事で、毎年産まれていると、結構多い数だなと何か嬉しいのですが2歳から50人位減っているのですね。やはり毎年500人位は産まれてきて欲しいなと思います。私の1歳の孫を母親が仕事中に預かっているのですが、親も子どもも忙しくて子どもは学校が終われば今度は塾と、日曜日だけ朝の8時半から午後6時まで預かっているのですが、今までは母親が迎えに来るとにこっと笑っていたのが、この間はギャーって泣き出したんですよ。それだけ自分は頑張って待っていたんだなと、私は孫が可哀相で、これが小学6年生まで続くのかと。週3日保育園に預けられ、日曜日は私の所へ預けられ、といろいろな所へ預けられて可哀想なので、私の所へ来た時くらいはゆっくり休ませているのですが、親も子ども大変だなと思っています。毎年500人位産まれてくることを私は嬉しく思っています。

峯委員：

一つだけお願いしたいことがあるのですが、表紙のページで何日までに返信すればいいのかという所が下の方に他の文章と同じような字で平成30年12月25日までにとあるので、もう少し分かり易く、太字にしたり大きくしたりなどをしていただきたいです。

須崎委員：

こどもの人数が年々減ってきているとのことですので、その対策として今回の調査を活かして次の計画に活かして頂きたいと思います。

松嶋委員：

少し逸れてしまいますけど、ニーズ調査ということで発送・回収・集計と大変な作業があると思います。実態を把握する上で大変貴重な資料となりますので、職員の皆さまにご尽力願いたいと思います。また先週なのですがNHK宇都宮放送局のニュースの中で今月は国が定めた児童虐待防止推進月間であり県内の状況を伝える、とありました。その中で小山市はこどもの貧困の実態調査の事を取り上げられていました。対象者が小学5年生、中学2年生、また義務教育学校に通われている同学年のお子さんとその保護者という事で、その中で外見では分かりにくい貧困の状況、対策の有無を把握することが目的と話されておりました。その際、市の課長が同じような実態に基づき行政、学校、地域と一緒に貧困を断ち切るような次の計画に活かしたいので率直な回答を寄せて欲しい、小山市の場合は6千人を対象にしているという話がございました。下野市としてこどもの貧困の実態をどのように把握されているのか、先ほどから子ども・子育て支援という言葉が出ていたものですから、どのように把握・対応されていくのでしょうか。

事務局：

本市では小山市のような貧困の調査は行っておりませんが、要保護児童対策協議会や学校、保育園などと連絡を密にし、気になるお子さんがいたらこども福祉課の担当職員が把握に努め、支援が必要な場合には市や児童相談所、場合によっては警察などとも協力して一人ひとりのケアに努めているといった状況であります。こどもの貧困率の把握も今後取り組んでいかなければならない、重要な課題であると考えております。

佐藤（麻）委員：

無作為抽出のため、お子さんが2人以上の場合は2通以上届く可能性がありますという事で、受け取ったお母さんはたいへんだなと思いました。保護者の方の状況などをしっかりと基礎資料として出して頂いてその声が市に届くという想いを伝えて頂けるニーズ調査でなければいけないなど、私の方も先ほどもありましたが園でも少し協力出来れば回収率も上がるのかなと思いました。また、保護者だけでなく子ども達の想いも、私たちも現場にいるものですから、地域、行政と一緒にやっていければいいかなと思いました。

伊崎会長：

ありがとうございました。回収につきまして峯委員と佐藤委員からもありましたが、記入にあたってのお願いの中で日にちをもうちょっと見易くするという点とあと、できれば郵便ポストにご投函くださいという所に園での回収もあるという事を記載できればという気がします。ただ、全ての園で回収して頂けるのでしょうか。

事務局：

日にちにつきましては、大きくしたり太字にしたりなど目立つような形に修正したいと思います。また、ご報告が遅れましたが、期限の12月25日の少し前に未就学児調査対象の方々にお礼のハガキを出させて頂き、その文中でもしご提出されていない場合にはご提出をお願いします、お礼兼督促といったものを郵送する予定です。また園での回収もできる旨を付け加えるかどうかという事につきまして、事務局内でも迷った所でありまして、入れてしまうと、もしかしたら通園されていない方も近所だからという事で持って来られても、園としても部外者の方が来られるのも困ってしまうだろうとの事から見送った経緯がございます。園だよりではそれを読むのは通園されている方だけかと思っておりますので、そちらでは掲載をお願いしております。

伊崎会長：

他にいかがでしょうか。

では、先ほどより宿題となっておりました宛名の所と子育ての所ですが、私と事務局に預からせて頂ければと思います。

大柿（未）委員：

前回は質問させて頂いたのですが、子どもが産まれた後のサポートなのですが、子どもが産まれた後の勉強会があるという事をお聞きしたのですが、窓口で聞いたら生まれる前の勉強会はあるけれども産まれた後の勉強会は実際には行っていないと聞いたのですがどうなのか教えて頂きたいと思います。

事務局：

勉強会ではないのですが、お子さんと一緒に子育てを学べたりする子育て支援センターが市内3カ所にご 있습니다。保育士が常駐し、子育ての悩み相談などもお受けしています。

大柿（未）委員：

そのような所はお母さんが多く、土日などで父母と一緒にいける所があるといいなと思っております。

事務局：

現在の計画にはありませんが、今年度の調査結果を踏まえ、来年度に次期計画策定を進めてまいりますので、検討していきたいと思っております。

伊崎会長：

では次の（2）その他に移りますが、事務局からありますか。

事務局：

ございません。

伊崎会長：

ありがとうございます。以上で議事を終了させていただきます。活発なご議論ありがとうございました。

事務局：

会長には長時間に渡る議事進行ありがとうございました。また委員の皆さまご意見ありがとうございました。続きまして次第の4 その他でございますが、皆さまから、ございますでしょうか。

それでは、事務局から連絡事項ですが、次回の会議の開催を来年3月に予定しておりますが、詳細については会長と調整の上、決定したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

5 閉 会

事務局：

以上をもちまして、平成30年度第2回下野市子ども・子育て会議を閉会といたします。

会議の経過を記載し、相違がないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

会 長

署名委員

署名委員